

# 第156回 埋蔵文化財セミナー

主催 京都府教育委員会・(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター  
後援 舞鶴市



平遺跡 (京丹後市)



出典：JOMON ARCHIVES (青森県教育委員会撮影)

三内丸山遺跡 (青森市)



浦入遺跡 (舞鶴市)

## 京都府内の 旧石器 縄文時代の 様相

2024  
11.30 [土]

舞鶴赤れんがパーク 4号棟  
13:30-16:20  
[開場 13:15]

上野遺跡 (京丹後市)



*Paleolithic*  
旧石器

申込  
不要

聴講  
無料

第156回埋蔵文化財セミナー

京都府内の旧石器・縄文時代の様相

日 程

13時30分 開会あいさつ  
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
常務理事・事務局長 阿部篤士

日程説明(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
調査課課長補佐兼企画調整係長 筒井崇史

13時40分 報 告 1  
「京都府北部の旧石器時代」  
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
調査課主任 面 将道

14時10分 報 告 2  
「舞鶴の縄文時代」  
舞鶴市生涯学習部文化振興課  
歴史文化まちづくり担当課長 松本達也氏

14時40分 報 告 3  
「京都府日本海側の縄文遺跡～京丹後市平遺跡をめぐって～」  
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
調査課主任 菅 博絵

15時10分 休 憩

15時20分 講 演  
「最新の縄文時代像と京都の縄文遺跡」  
同志社大学文学部教授 水ノ江和同氏

16時20分 閉 会

主 催 京都府教育委員会  
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
後 援 舞鶴市  
会 場 赤れんがパーク4号棟

# 京都府北部の旧石器時代

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 面 将道

## はじめに

日本国内における旧石器時代研究は、1949年の群馬県岩宿遺跡の発見によって始まり、全国で同時代の遺跡を求めた調査が相次いでなされることになりました。京都府内における後期旧石器時代の遺跡の探求は、1968年に有舌尖頭器と呼ばれる石器が雑誌『古代文化』第20巻で報告(有柄尖頭器と記載)されたのが始まりでした。この有舌尖頭器は、現在では縄文時代草創期に作られたことがわかっていますが、当時は旧石器時代の遺物と考えられていました。その後、1970年に京都市の大枝遺跡や菫蒲谷池遺跡で、縄文時代草創期や後期旧石器時代の石器の発見を契機に、府内の各地で調査がおこなわれた結果、後期旧石器時代の石器が続々と発見・報告されました。このときに見つかった石器は、地表面に落ちていたり、他の時代に地面を掘り返した層に混じりこむものばかりで、後期旧石器時代に堆積した土の中からの発見はありませんでした。

京都府で初めて後期旧石器時代の堆積層から石器が出土したのは、1997年の長岡京市の南栗ヶ塚遺跡での発掘調査です。続く出土事例は、2004年の長岡京市神足遺跡の調査で、約7,300年前の鬼界カルデラの噴火にともなうアカホヤ火山灰と、約3万年前の始良カルデラの噴火にともなう始良丹沢火山灰(AT)の間から、南栗ヶ塚遺跡と同じような状態で石器が見つかりました。このように京都府南部でまとまった資料が増える一方、府北部では南栗ヶ塚遺跡や神足遺跡のような状態で石器が見つかることは最近までありませんでした。今回は、近年になって相次いで京都府北部で見つかった2つの遺跡に注目します。



第1図 府内の主な有舌尖頭器等の出土地(中川2006)

## 1. 旧石器時代とは

旧石器時代は、約300万年以上前に始まります。人類は長い時間をかけて世界中へと拡散していきました。現代の我々と同じホモ・サピエンス(現生人類)は5～4万年ほど前には極東アジアに到着していたようで、日本列島へのルートは北海道・対馬・沖縄を経由するルートが考えられ(第2図)、対馬ルートのスタートとなる朝鮮半島では、約4万2千年前の現生人類の遺跡が残されています。日本列島には、諸説がありますが遅くとも3万8千年前には確実に到達していたことがわかっています。

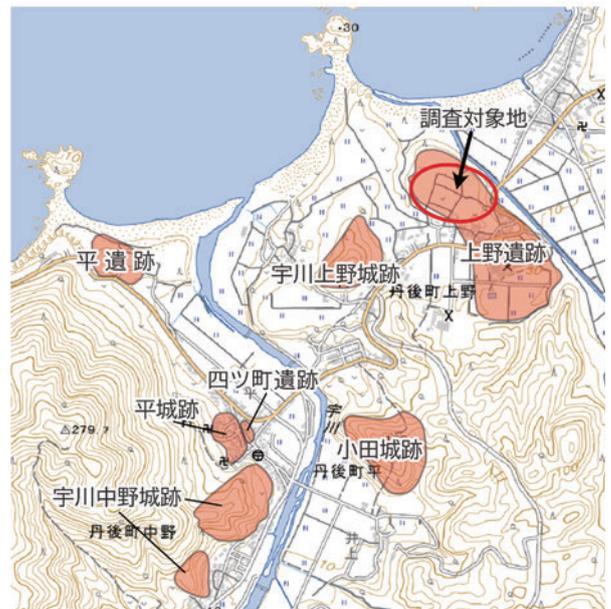


第2図 人類が日本列島に至るルート

## 2. 京丹後市丹後町 上野遺跡の発見

上野遺跡は、京丹後市北部の日本海側、「丹後松島」として知られる日本海に面した標高約28mの海岸段丘に立地する遺跡です(第3図)。

この遺跡は、縄文土器や石器、平安時代の焼き物(土器)が拾われたことから、縄文時代から平安時代にかけての遺跡とされてきましたが、発掘調査が実施されていないため、実態は不明でした。しかし、2017年から2022年にかけて道路工事に伴う発掘調査がおこなわれ、後期旧石器時代の遺跡でもあることが明らかとなりました。



第3図 上野遺跡と周辺の遺跡

発掘調査が始まってからすぐに古墳時代の土器が入り込んだ炉跡や地面を掘り込んだ跡(土坑と呼びます)が多く見付き、古墳時代の人々が生活していたことがわかってきました。さらに調査を進めるうちに、黄土色がかかった土の下にある粘土の堆積層の中から、1つの石器が出土しました。見つかった石器は親指くらいの大きさで、台形のような形をしていました。石器の形の特徴と、石器が見つかった土の上にあった黄土色がかかった土に、始良丹沢火山灰(AT)が含まれていたことから、3万年よりも古い時代に作られた石器であることがわかりました。このことを受けて、石器が見つかった場所を中心に調査を進め、

182点の石器を見つけることができました。見つかった石器(写真3)はどれも親指程度の大きさで、形も不ぞろいなものばかりでした。

この遺跡で石器に使われている主な石材は、チャートと呼ばれる赤や青あるいは緑色をしたとても硬い石で、遺跡の周辺では拾うことができません。また、鳥根県の<sup>おき</sup>隠岐群島で取れる<sup>こくようせき</sup>黒曜石がごくわずかながら出土しています。上野の地に石器を残した人々は、日本海の沿岸を伝って山陰地方からやってきたのかもしれません。



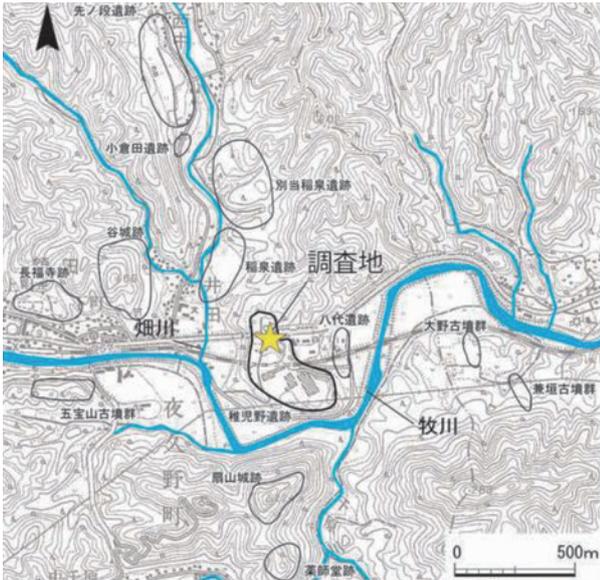
写真1 壁面での石器の位置



写真2 上野遺跡調査状況



写真3 上野遺跡出土の府内最古の石器



第4図 稚児野遺跡と周辺の遺跡



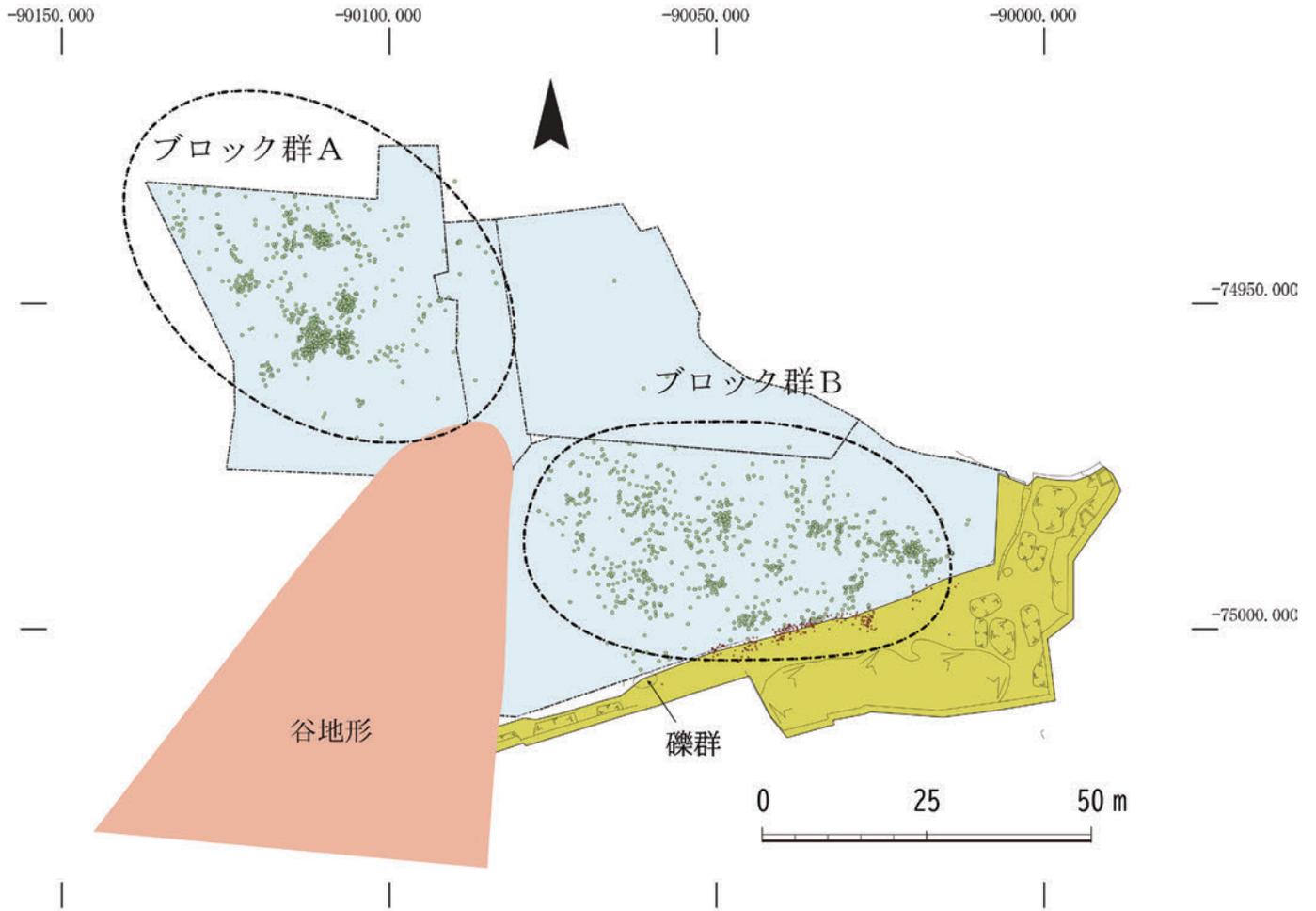
写真4 稚児野遺跡石器出土状況

### 3. 福知山市夜久野町 稚児野遺跡の発見

稚児野遺跡は、福知山市西部の由良川支流にあたる牧川に臨む標高約105mの河岸段丘上に位置する遺跡です(第4図)。この遺跡も調査前は後期旧石器時代の遺跡としては知られておらず、2017年の発掘調査で始良丹沢火山灰(AT)を含んだ土の下から石器が出土したことから、後期旧石器時代の遺跡であることが確認されました(写真4)。その後、5年間にわたる調査によって約2,000点もの石器が見つかり、出土した場所がかたよっていることがわかりました(第5図)。特に石器が集中して見つかった場所(石器集中部)は、そこで石器を作った証拠となります。石器集中部は関西では珍しい円弧状に並ぶ環状ブロックと呼ばれる広がりになっていました。環状ブロックは谷を挟んで東西2つ存在します。広範囲で石器が作られていたことがわかり、京都府内最大級の後期旧石器時代の遺跡であることが明らかとなりました。見つかった石器には、ナイフ形石器とよばれる槍先として狩りに使ったと考えられるものや、スクレイパーというものを切ったり削ったりする道具などがあります。これらの石器には、サヌカイトと呼ばれる奈良県の二上山でとれる安山岩がよく使われていました。旧石器時代の人はいこれらの石材を手に入れるために、直線距離で100km以上も移動していたようです。石器を作るためにもちいる石に対しての情熱が感じ取れます。また、上野遺跡でも使われていたチャートや隠岐群島産の黒曜石も見つかることから、瀬戸内海側と日本海側をつなぐ重要な拠点であったと考えられます。

### 4. 京都府北部の旧石器時代

京都府北部で見つかった遺跡から出土した石器は、京都府南部の石器とは大きく様子が



第5図 稚児野遺跡の石器分布

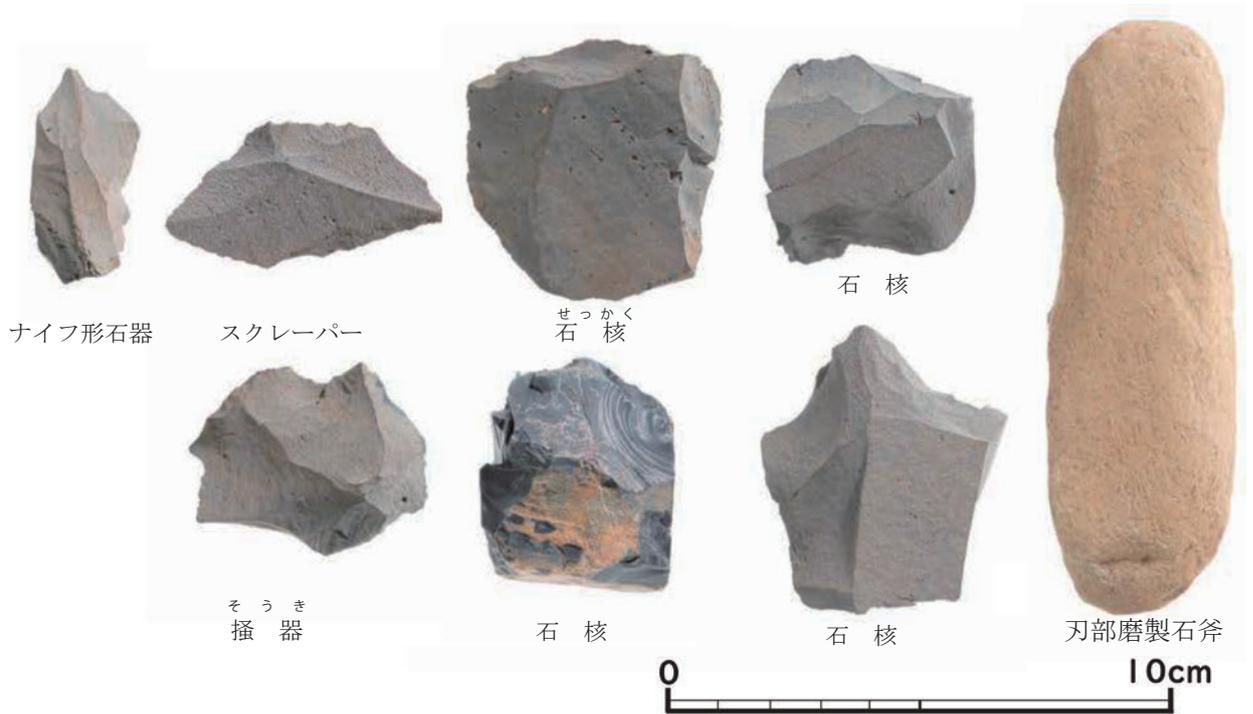


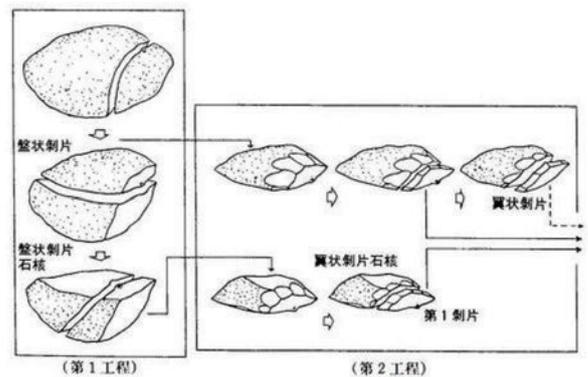
写真5 稚児野遺跡出土石器

異なります。

南部で見つかった石器はどれも形が整い、作り方が同じだとわかります。この同じ形の石器を作る方法のことを「技法」と呼び、日本列島内の色々な地域で様々な技法が見つかります。西日本では、横に長い石の破片を規則的に作り出す瀬戸内技法と呼ばれる作り方(第6図)が始良丹沢火山灰(AT)が降り注いだ後から流行していたことがわかっています。

一方、今回見つかった石器は、この火山灰の下から出土しており約3万年前よりも古い時代に使われたもので、技法が固まっていない段階の石器であるといえます。

なお、今回見つかった2遺跡は瀬戸内海から日本海へ抜ける「氷上回廊<sup>ひかみかいろう</sup>」とよばれる本州で標高が最も低い分水嶺付近に位置しており、同時代の春日七日市遺跡<sup>かすがなのかいち</sup>と板井寺ヶ谷遺跡<sup>いたいてらがたに</sup>があることも注目されます(第7図)。



第6図 瀬戸内技法概念図(松藤和人1986)



第7図 氷上回廊と後期旧石器時代前半の遺跡

### 今後に向けて

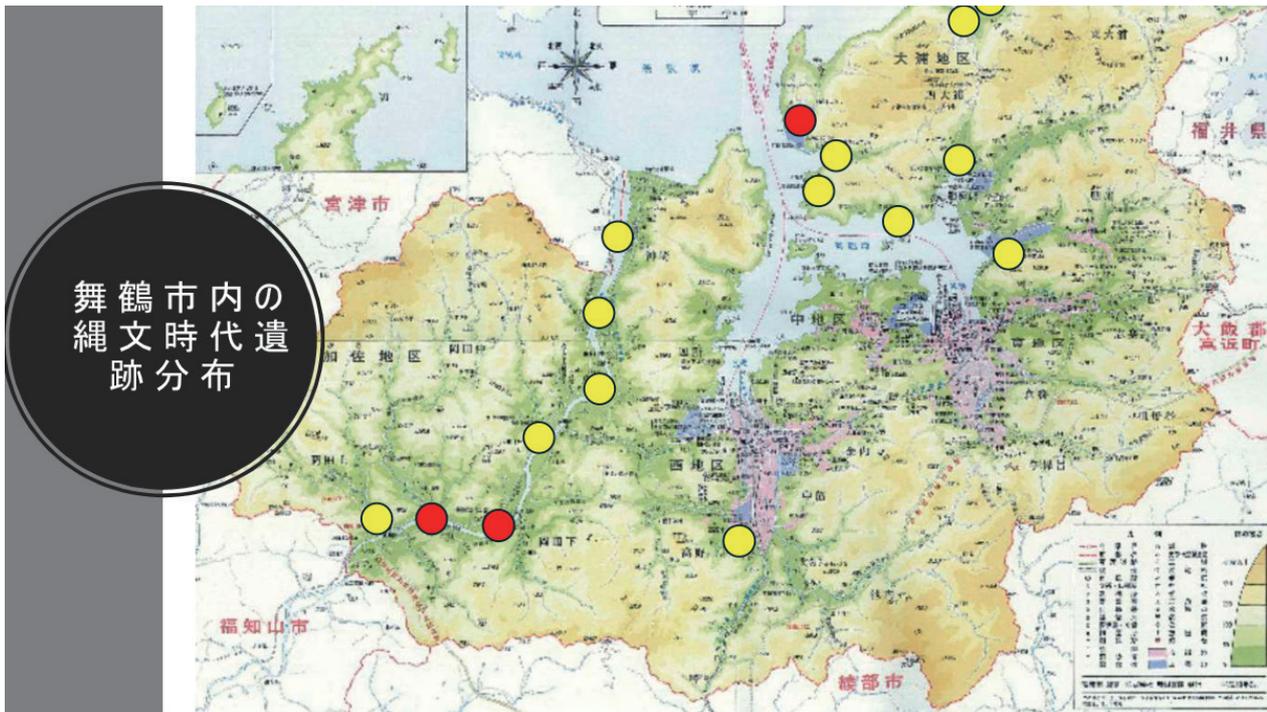
近年発見された2つの後期旧石器時代の遺跡は、水辺から離れた小高い平坦地に位置している点で同じであるといえます。京都府北部には、海沿いに広がる平坦地をはじめ、内陸部では、由良川によって作られた小高い場所、「氷上回廊」につながる河川沿いなど、後期旧石器時代の人々が好む地形がたくさんあります。その全ての場所に後期旧石器時代の遺跡が残されているわけではありませんが、今後の調査で京都府の後期旧石器時代の人びとの暮らしを解明する新たな発見が続くことが予想される、とても重要な場所であるといえます。今後の発見により、遺跡や遺物などのデータが増えれば、日本列島に現生人類が住みだした頃の人々のくらしぶりが、より鮮明に復元することができるようになるでしょう。

### 参考文献

- 中川和哉2006 「旧石器時代の京都」遺跡でたどる京都の歴史(1)『京都府埋蔵文化財情報』第101号(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
 松藤和人1986 「旧石器時代人の文化」『日本の古代4』中央公論社から一部改変

# 舞鶴の縄文時代

舞鶴市文化振興課 松本 達也



資料1

## 舞鶴での縄文時代遺跡発見の契機

### 由良川川底遺跡

- 矢田悟朗氏の採集  
昭和35年代、八雲橋下流付近での土器採集 ⇒ 京都教育大に持ち込み縄文時代遺跡の確認
- 杉本嘉美氏の採集  
昭和40年代、由良川の砂利採集船で採集された土器から遺跡を推定  
(和江、三日市、志高、岡田由里、地頭、高津江、三河)



資料2

## 舞鶴で最も古い人の痕跡

- 縄文時代草創期（約12,000年前）  
有舌尖頭器（小橋遺跡・女布遺跡）



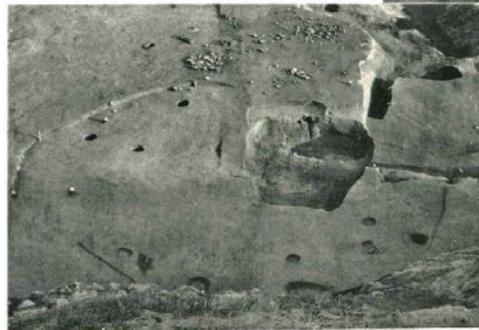
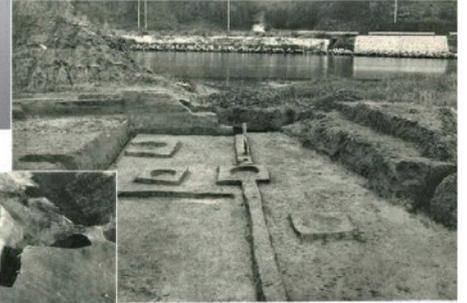
資料3



## 志高遺跡

縄文時代前期の集落  
由良川自然堤防上に位置する  
縄文時代前期の土器が層ごとに出土

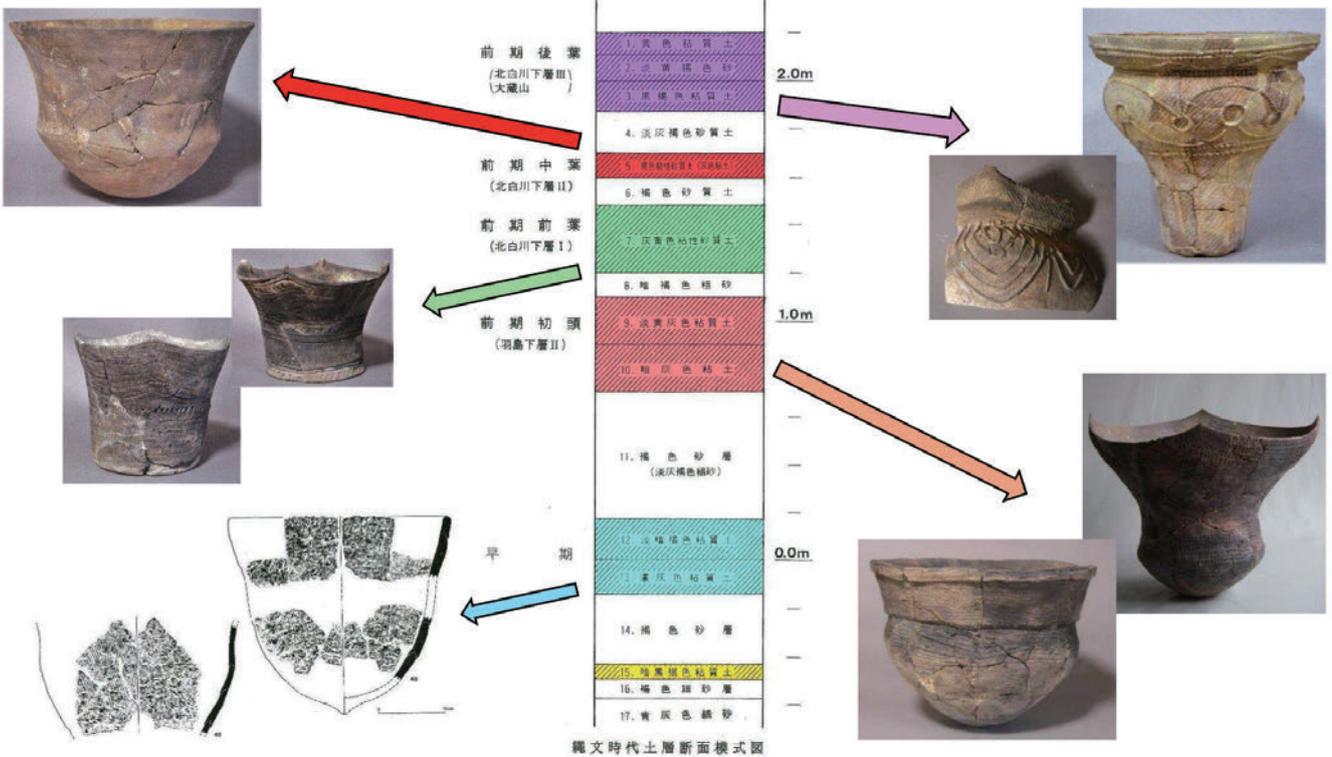
資料4



(2) 竪穴式住居跡 (S1186002) (北西から)

前期の埴輪土器 (北西から)

資料5



資料6

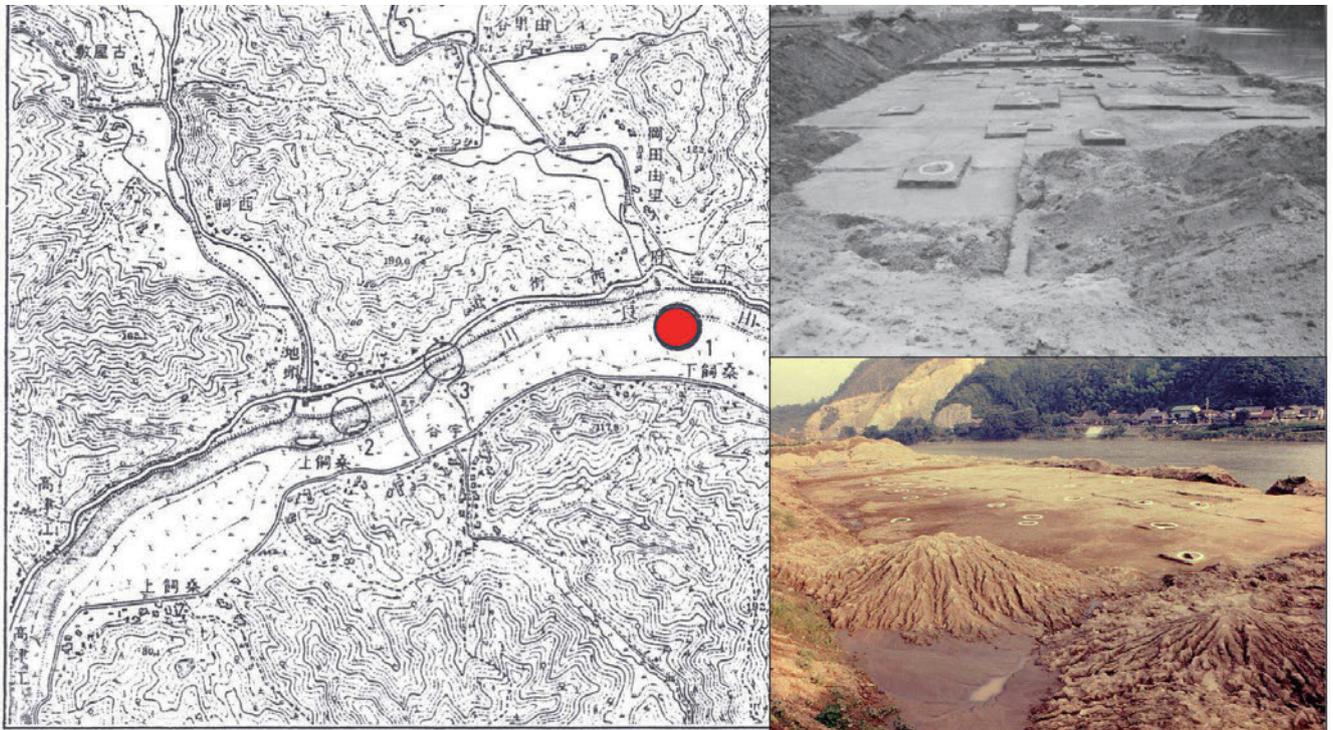
## 桑飼下遺跡

- 縄文時代後期の集落

自然堤防上の遺跡の確認  
 縄文集落の様子  
 植物遺体の確認  
 打製石斧の大量出土etc



資料7



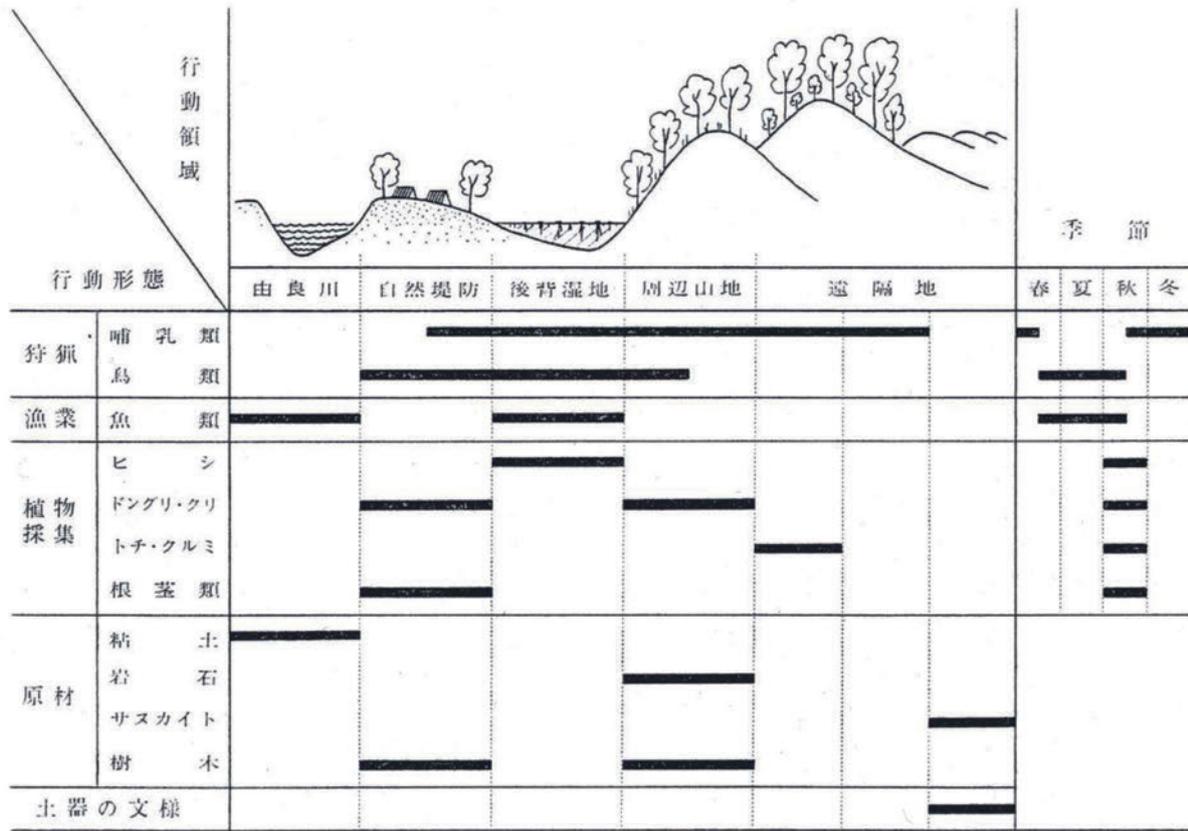
資料8



資料9



資料10



資料11

# 浦入遺跡

海辺の縄文時代集落



資料12

## 丸木舟の発見



資料13



(2)丸木舟出土状況(東から)

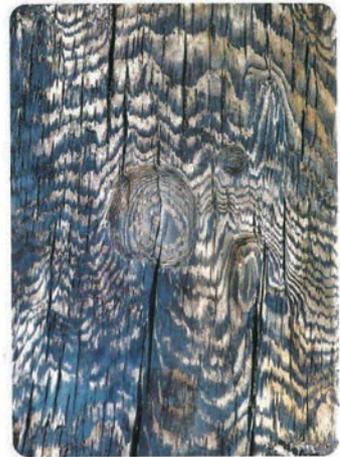


(1)丸木舟出土状況(南東から)

資料14



外面焦げ痕



内面焦げ痕

資料15

P2 地点出土縄文時代玉製品



資料16

### アカホヤ火山灰 (縄文時代早期末7,300年前)



(1) アカホヤ火山灰検出状況



(2) アカホヤ火山灰断面

資料17

メモ用紙

# 京都府日本海側の縄文遺跡

## ～京丹後市平遺跡をめぐって～

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 菅 博絵

はじめに～平遺跡とは～

平遺跡は、京丹後市北部の宇川河口部の日本海に臨む縄文時代から中世にかけての集落遺跡です(第1図)。周辺の遺跡には中世の山城である平城跡や宇川上野城跡、中世城跡である宇川中山城、旧石器時代～平安時代の複合遺跡である上野遺跡があります。

平成30年度から令和5年度にかけて浜丹後線(上野平バイパス)民安関連道路新設改良業務委託・国道178号広域幹線アクセス道路整備事業に伴い発掘調査を実施しました(第2図)。

### 1. これまでの調査～縄文時代を中心に～

平遺跡は、畑の開墾中に土器が出土することに気づいた地主により発見されました。地主は地元の宇川中学校教諭へ連絡し、その後峰山高校教諭から同志社大学の酒詰仲男教授さかづめなかおに縄文土器らしきものが出土したので調査を希望したい旨伝えられました。これを受けて、同志社大学考古学研究室が昭和37年度に予備調査を行い、翌昭和38年度に発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代前期から晩期までの縄文土器が出土し、その中に東日本の土器も含まれていることがわかりました(原1964)。昭和40年度には、帝塚山大学考古学研究室が主体となって、同志社大学考古学研究室と合同調査を実施し、縄文時代前期から晩期まで遺物が層位的(新しい地層は古い地層の上に重なること)に出土することがわかりました。出土した縄文時代中期の土器の一群が「平式土器」と名付けられ、縄文時代中期の指標的な土器として知られます(堅田1966)。

道路敷設に伴う第3次調査では、縄文時代早期から晩期の包含層(遺物を含む地層)、縄文時代晩期の埋甕と石敷炉などを検出しました。この調査の結果、平遺跡での居住時期が縄文時代早期まで遡ることがわかりました(河野1997)。

### 2. 平式土器～縄文時代中期の代表的土器～

帝塚山大学の堅田直氏かたただしは昭和40年度の調査成果の概要で、出土した縄文時代前期から晩期までの土器を平Z I式～平B I式の9段階にわけ、瀬戸内と近畿地域との併行関係と文化的影響を示しました(付表2)。その中で平C III式の土器を近畿北部の沿岸地帯に分布す

る独自のものであるとし、縄文時代中期後半の標式(型式・時代決定の指標)としました。

平式土器は、「土器の地文は無文で平滑に仕上げ、その上に太い沈線や太い沈線内に刺突を行った線によって渦状文や波状文、円形文をもって飾った赤褐色のやや厚手の土器(堅田1966)」と定義されました(第3図)。

### 3. 地理的環境～平遺跡を周辺の環境から考える～

平遺跡の周辺の環境を見てみると、東側には砂州・砂丘や宇川の氾濫原<sup>はんらんげん</sup>があり、西側には海成段丘が形成されています。遺跡背後の山の斜面地には、地滑り<sup>じすべ</sup>地形が見られます(第4・6図)。第4図に示した地形図から読み解くと、平遺跡の調査地周辺は、地滑り移動体(滑った土塊<sup>つちくれ</sup>の到達範囲)を侵食した開析谷<sup>かいせきだに</sup>の谷壁斜面から谷底に位置することが指摘されています(辻2024)。

第7次調査の成果から、縄文時代から中世にかけての谷の堆積土は粗粒砂(粒径0.5～1mm)と極粗粒砂(粒径1～2mm)が主体であり、砂丘の砂が粒径<sup>りゅうけい</sup>0.1～1mmであることを考えると、砂丘堆積でないと考えられます。

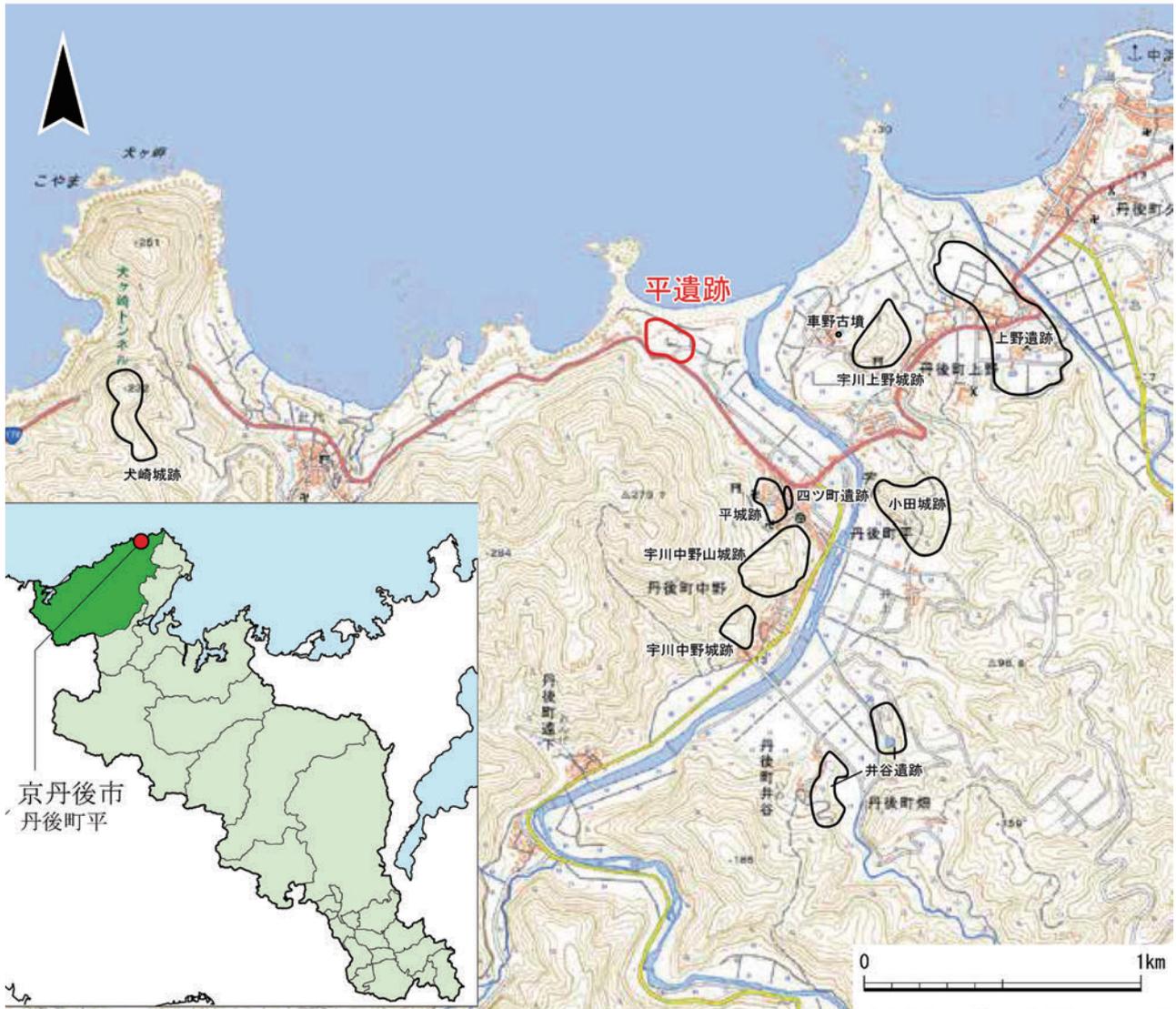
平遺跡は、従来砂丘上の遺跡と理解されてきましたが、これまでの調査においても砂丘の堆積層が認められていないこともあり、砂丘上ではなく、地滑り移動体の緩斜面上に広がっていたと考えられます。また、出土した土器の磨滅度を調査区ごとに比較すると、東側に位置する1～3次調査区から出土した土器が北西に位置する6・7次調査区出土土器より磨滅度が低いことから、集落は1～3次調査区の東側に位置したことが想定されます(渡辺2024)。

### おわりに～平遺跡の人はなぜここに住んだのか～

平遺跡は天然鮎<sup>あゆ</sup>生息地としても有名な宇川河口付近であり、遺跡の南側には依遅ヶ尾山<sup>いちがおさん</sup>の尾根が近接していることから、川や森林の資源が多様であったと考えられます(第5・6図)。また、日本海にも面しており、遺跡の西側は、狭い海岸段丘で海岸へのアクセスが不便ですが、平遺跡は地滑りにより緩斜面地となっていることから、海岸へのアクセスが容易です。また、地滑りした地には湧水が生じやすく、開析谷(沢)の水も利用できたと考えられ(辻2024)、遺跡の周辺は生活しやすい環境であったと考えられます。

### <参考文献>

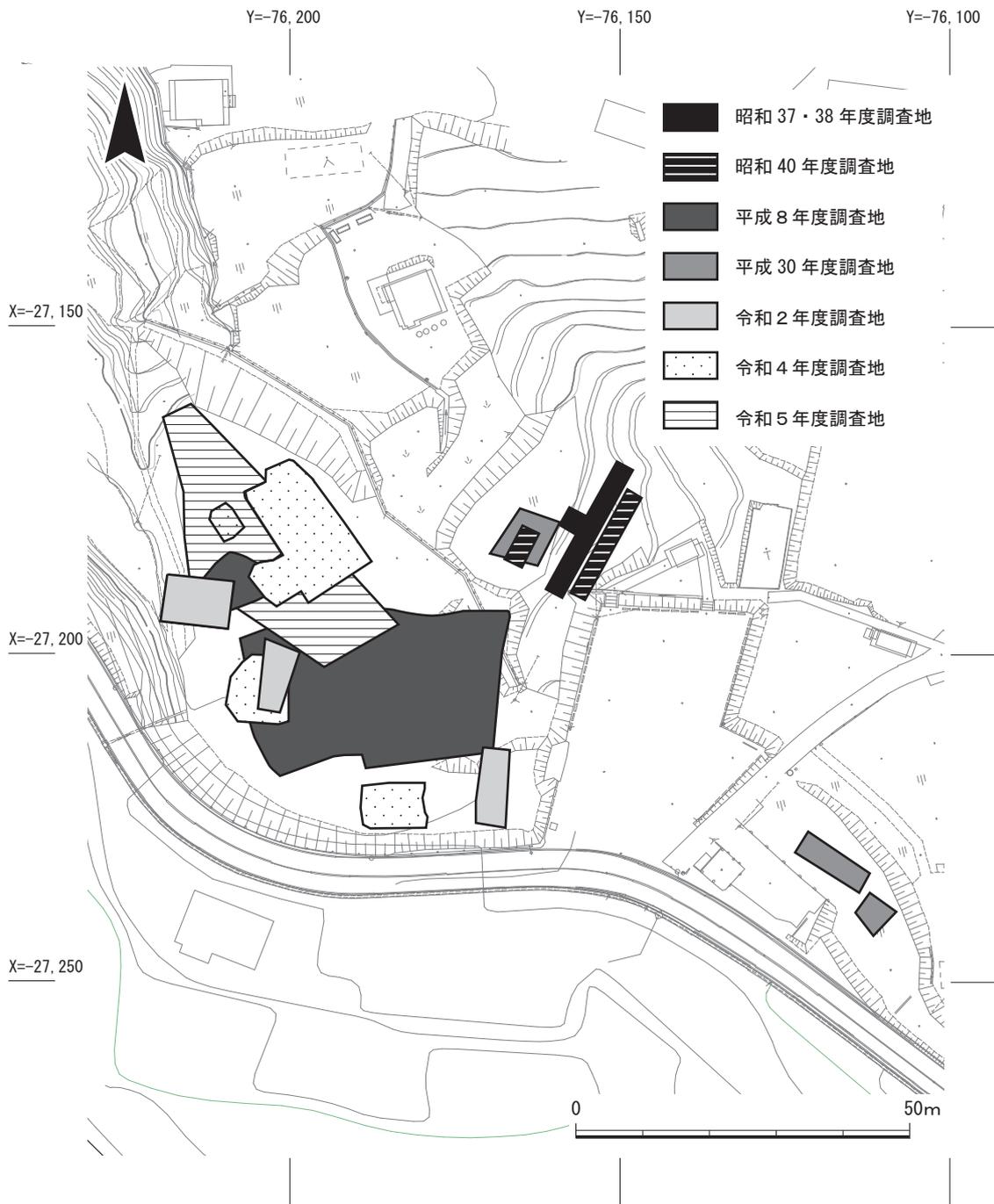
- 堅田直編1966『平遺跡調査概要』考古学シリーズI 帝塚山大学考古学研究室  
 河野一隆1997「1. 平遺跡」『京都府遺跡調査概報』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
 辻 康雄2024「平遺跡とその周辺の地形と立地環境」関西縄文文化研究会2024年11月例会資料  
 原 博1964『同志社考古』第3・4号 同志社大学考古学研究会  
 渡辺幸奈2024「平遺跡第4～7次調査出土縄文土器概要」関西縄文文化研究会2024年11月例会資料



第1図 調査地位位置図(1/25,000 地理院タイル)

付表1 平遺跡調査回数一覧

回数	調査期間	調査面積	調査機関	報告書等
試掘	昭和37年12月中旬	(16 m <sup>2</sup> )	同志社大学考古学研究室	同志社考古第3・4号
1次	昭和38年5月	(78 m <sup>2</sup> )	同志社大学考古学研究室	
2次	昭和40年7月28日～昭和40年8月10日	(72 m <sup>2</sup> )	帝塚山大学考古学研究室	京都府丹後町平遺跡調査概要
3次	平成8年8月26日～平成8年12月15日	1,000 m <sup>2</sup>	当調査研究センター	京都府遺跡調査概報第79冊
4次	平成30年8月1日～平成30年12月21日	200 m <sup>2</sup>	当調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第135号
5次	令和2年9月28日～令和2年10月29日	150 m <sup>2</sup>	当調査研究センター	-
6次	令和4年8月17日～令和4年10月7日	350 m <sup>2</sup>	当調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第144号
7次	令和5年8月23日～令和5年12月21日	1,180 m <sup>2</sup>	当調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第146号



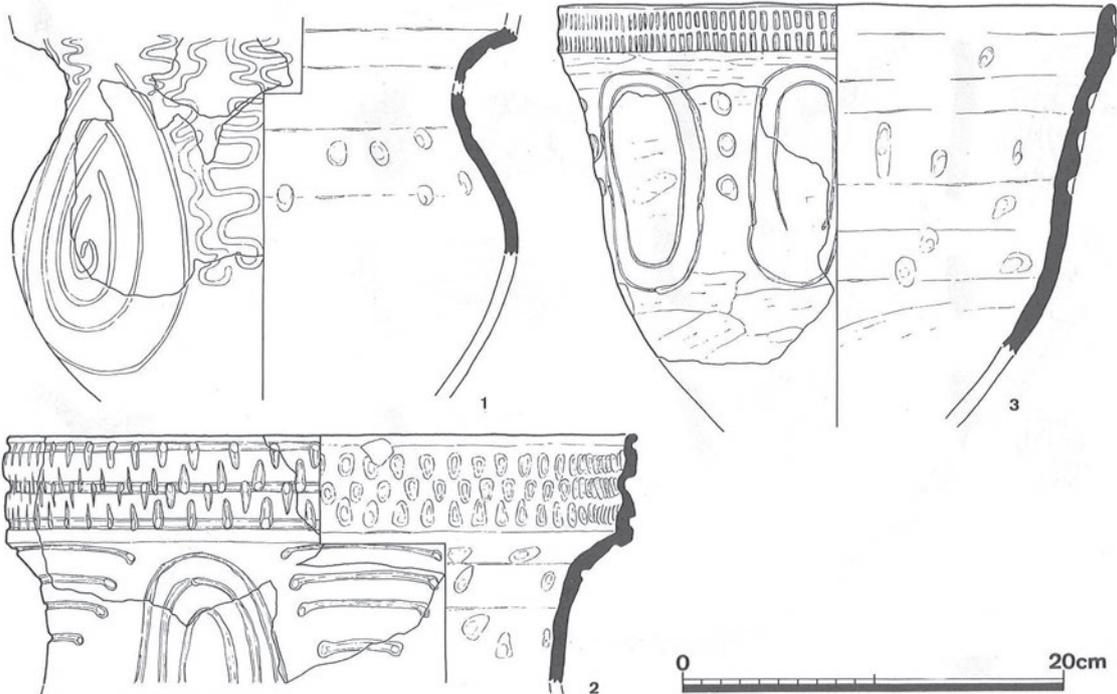
第 2 図 調査区配置図(1/1,000)

付表2 平遺跡第2次調査出土土器編年表(堅田1966をトレース)

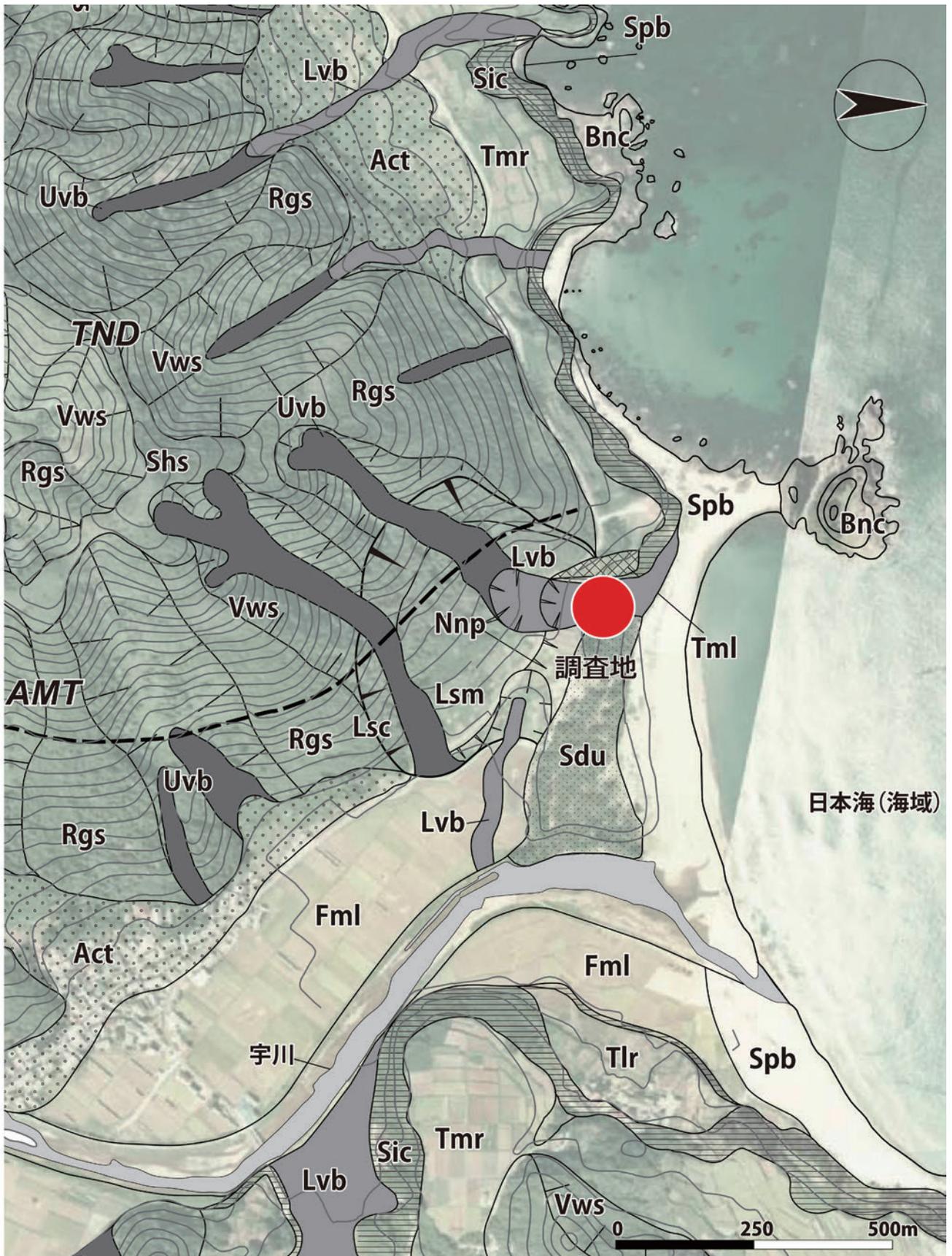
	C <sup>14</sup> による年代 (B.C.)	瀬戸内	平	近畿
前期	3150±400 (加茂)	羽島下層 I 羽島下層 II 月崎下層 羽島下層 III 磯ノ森下層 磯ノ森 彦崎 Z I 彦崎 Z II 田井	平 Z I ← 北白川下層 III 平 Z II ← 大歳山	安土N上層 北白川下層 I 北白川下層 II a 北白川下層 II bc
中期	2563±300 (姥山)	船元 I 船元 II 里木 II 福田 C	→平 C I →平 C II 平 C III →平 K I	醍醐 I 醍醐 II 天理 K
後期	1122±180 (検見川)	中津 月崎上層 平城 彦崎 K II 馬取 福田 K III	平 K II ← 平 K III ←	北白川上層 一乗寺 K I 元住吉山 I 元住吉山 II 宮 滝
晩期	950±140 (八幡崎)	黒土 B I 原下層	→平 K I ←	滋賀里治 丹
期	640±150 (西志賀)	黒土 B II		檀原橋 船

(矢印は文化圏の流れを示す)

拠「日本の考古学」



第3図 第3次調査出土平式土器(1/4)(河野1997)



第4図 平遺跡周辺の地形図(1/1,000)(辻2024を一部改変)

#### 第4図 解説

第4図の空中写真画像は、国土交通省の国土地理院のweb地図閲覧サービスの「地理院地図」の1974～1978年のタイルマップ画像を使用した。等高線等のデータは、国土地理院の「基盤地図情報」のデータを使用した。なお、山地斜面の等高線の間隔は10mである。データの空間的統合には、QGISを使用した。

また、基盤岩の岩質の情報は、産業総合研究所の地質情報閲覧サービスの「地質図Navi」と、産業総合研究所の地質調査総合センター刊行の中江 訓・辻野 匠・小松原 琢・高木哲一・宮川歩夢（2022）の20万分の1地質図幅の宮津（第2版）を参照した。

各記号の凡例は次のとおりである。

- ・山地斜面（基盤岩）

- 凸型斜面

- Shs：頂部平滑斜面
  - Rgs：尾根型斜面

- 凹型斜面

- Vws：谷壁斜面

- ・開析谷

- Uvb：上部谷底面（相対的に谷底の地形傾斜が急）

- Lvb：下部谷底面（相対的に谷底の地形傾斜が緩）

- ・地すべり

- Lsc：滑落崖
  - Lsm：移動土塊

- ・段丘面

- Tmr：中位段丘面（後期更新世中期 / 海成段丘）

- Tlr：低位段丘面（後期更新世後期 / 河成段丘）

- ・地すべりによって変形した段丘面

- Tml：滑落した中位段丘面

- ・急崖

- Sic：段丘崖および開析谷谷壁斜面

- ・沖積地

- Act：沖積扇状地および沖積錐（後期更新世後期～完新世）

- Fml：河成および海岸低地（完新世）
  - Spb：砂州および砂浜（完新世）

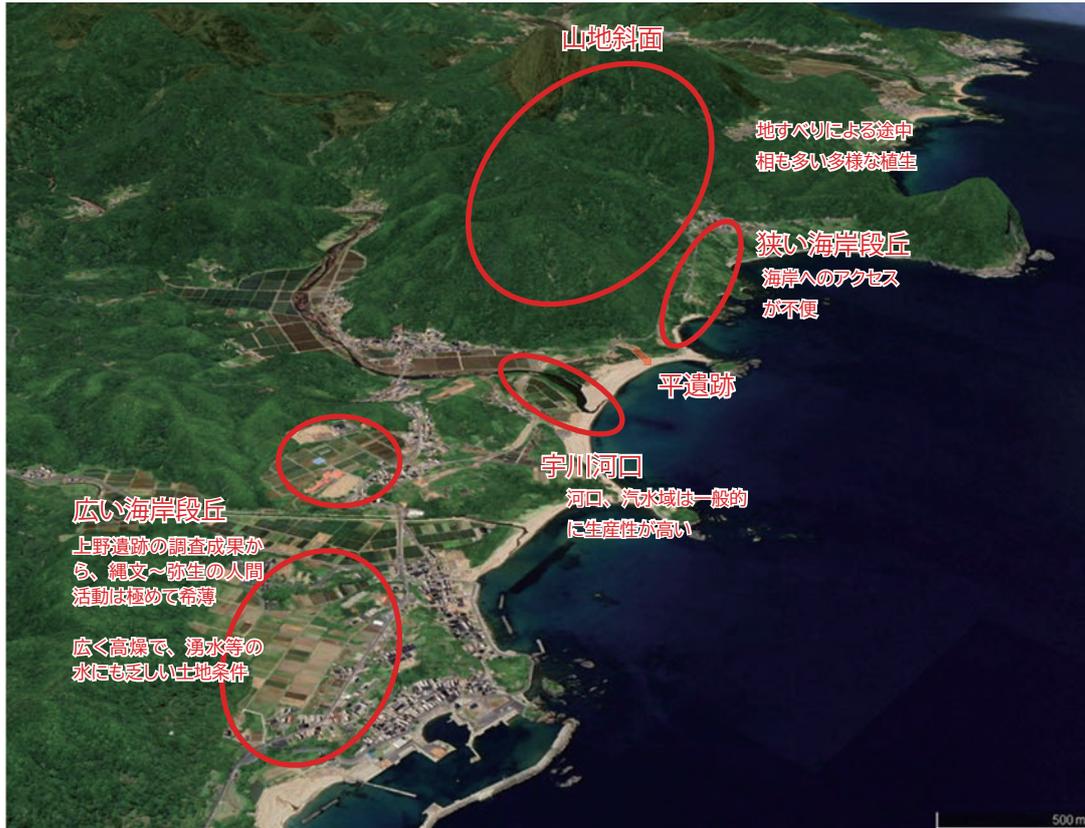
- Sdu：砂丘（完新世）
  - Bnc：波食棚、残丘などの岩石地形（完新世）

- ・山地斜面を構成する基盤岩の地質

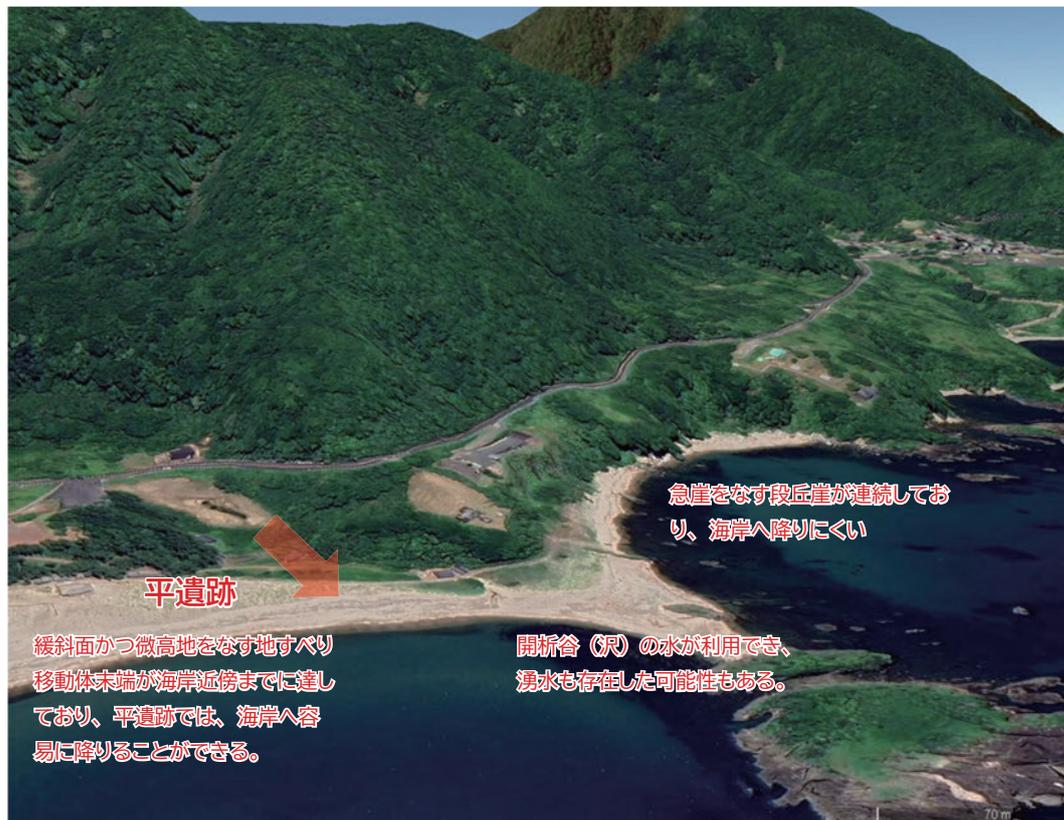
- AMT：流紋岩火山碎屑岩（新第三紀 中新世 網野層）

- TND：デイサイト貫入岩（新第三紀 中新世 丹後層）

- \* 山地斜面中の破線（太線）は、地質境界を示す



第5図 平遺跡の周辺の自然環境 (辻2024)



第6図 平遺跡近辺の環境 (辻2024)

# 最新の縄文時代像と京都の縄文遺跡

同志社大学文学部 水ノ江和同

## はじめに

日本では毎年、約8,000件の発掘調査が行われています。また、さまざまな科学的な分析も考古学に援用され、我々が肉眼で確認できないような微細な試料から多くの情報を得ることができるようになりました。さらに、我々の生活を大きく変えているデジタル技術の活用は、考古学の世界にも着実に浸透しており、これまで想像すらしなかった領域の成果をたくさんもたらしています。

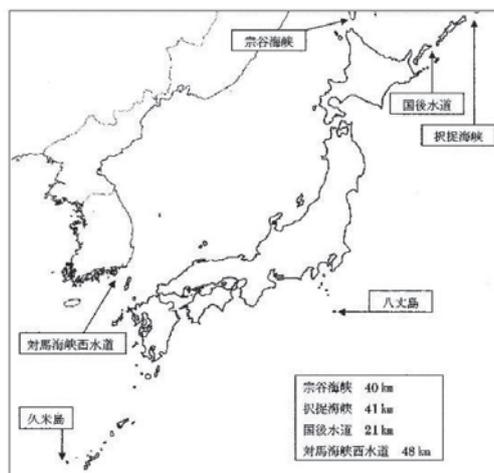
このようなことから、考古学も日進月歩の勢いで進化(深化)しており、研究者も少し気を抜くとすぐに置いてきぼりの状態になります。今回、①最新の縄文時代像、②世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」、③京都の縄文遺跡、といった3つの視点から、最新の縄文時代像をお伝えします。

## 1. 最新の縄文時代像

縄文時代とは 縄文時代とはどういう時代でしょうか。現在、もっとも一般的な定義としては、「縄文土器が使われた時代」とされています。つまり、土器がまだなかった旧石器時代(約40,000年前～約15,000年前)の後で、稲作農耕が始まる弥生時代(約2,800年前～約1,850年前)の前の時代ということになります。

その文化については、「世界の新石器文化とおおよそ同じ年代であるが、農耕と牧畜を生業の主体とする世界の新石器文化とは異なり、狩猟・漁撈・採集を生業の主体とし、精神・呪術に関する道具が特に豊富な文化」ということになります。

そして、縄文文化の範囲は第1図のように、ほぼ現在の日本の国土に相当します。北は宗谷海峡と択捉海峡、伊豆諸島では八丈島まで、九州では対馬海峡西水道と沖縄・久米島までです。



第1図 縄文文化の範囲

**縄文時代の遺跡数** 現在の日本の遺跡数は472,071遺跡（文化庁HPより）。特定の地域に偏ることなく、ほぼ全国に満遍なく分布しています。ちなみに、京都府の遺跡数は17,344遺跡で全国7位と、遺跡数はとても多い地域です。

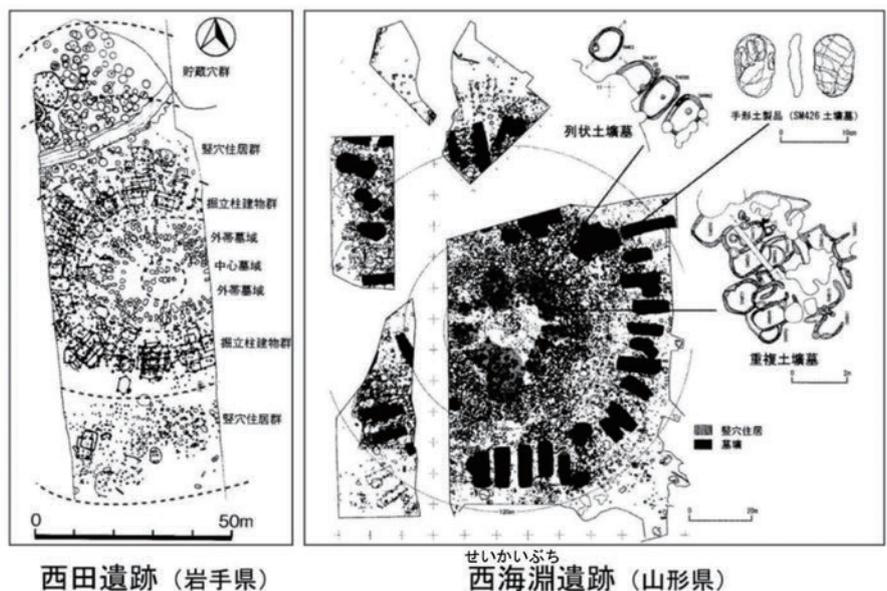
ところが、縄文時代については様相が大きく異なります。現在の縄文時代の遺跡数は95,103遺跡。このうち東日本（石川県－岐阜県－愛知県より東）に77,555遺跡、西日本には17,548遺跡が分布し、実に約8割は東日本に集中します。よく縄文文化は東高西低といわれますが、そのことはこういった遺跡数からも知ることができます。ちなみに、京都府の縄文遺跡は264遺跡で全国39位と、とても少ない地域です。

**縄文文化は東高西低？** 縄文文化が東高西低といわれる所以は、遺跡数だけではありません。東日本の遺跡の規模は西日本にない大きさです。青森県の<sup>さんないまるやま</sup>三内丸山遺跡（約6,000～4,500年前）は、その規模が大きいだけでなく、その規模がほぼ約1,500年間にわたって継続したことから、それだけの人口を維持する食物を獲得する技術や体制の存在が想定されます。秋田県の<sup>おおゆ</sup>大湯環状列石（約4,000年前）は、大人2～3人でやっと抱えることができるような大きな石をたくさん、直径40mほどの環状に並べますが、その労働力は計り知れません。千葉県の<sup>かそり</sup>加曽利貝塚は、縄文時代中期（約4,500年前）の直径120mと、縄文時代後期（約3,800年前）の直径100mの環状の大型貝塚を2つ有しています。そして、東日本では縄文時代前期から後期まで（約7,000～3,500年前）、各地で直径100mほどの環状集落が作られます。このように、遺跡の規模は確かに大きく、西日本はなかなか太刀打ちできない状況でした。

さらに、その造形的な素晴らしさから岡本太郎さんも絶賛して世界的にも有名になった<sup>かえん</sup>火焰型土器、<sup>どくう</sup>土偶や<sup>じゅじゅつ</sup>仮面といった呪術的な道具類、そして新潟県糸魚川市域で産出する美しい緑色の石であるヒスイを使った<sup>そうしんぐ</sup>装身具など、縄文文化を代表する考古資料も東日本に集中しています。

**西日本の再評価** ところが、考古学研究が進展してくると、西日本の縄文文化を再評価する機運が高まってきました。

もっとも古い環状集落は、鹿児島県の<sup>うえのはら</sup>上野原遺



第2図 縄文時代の環状集落

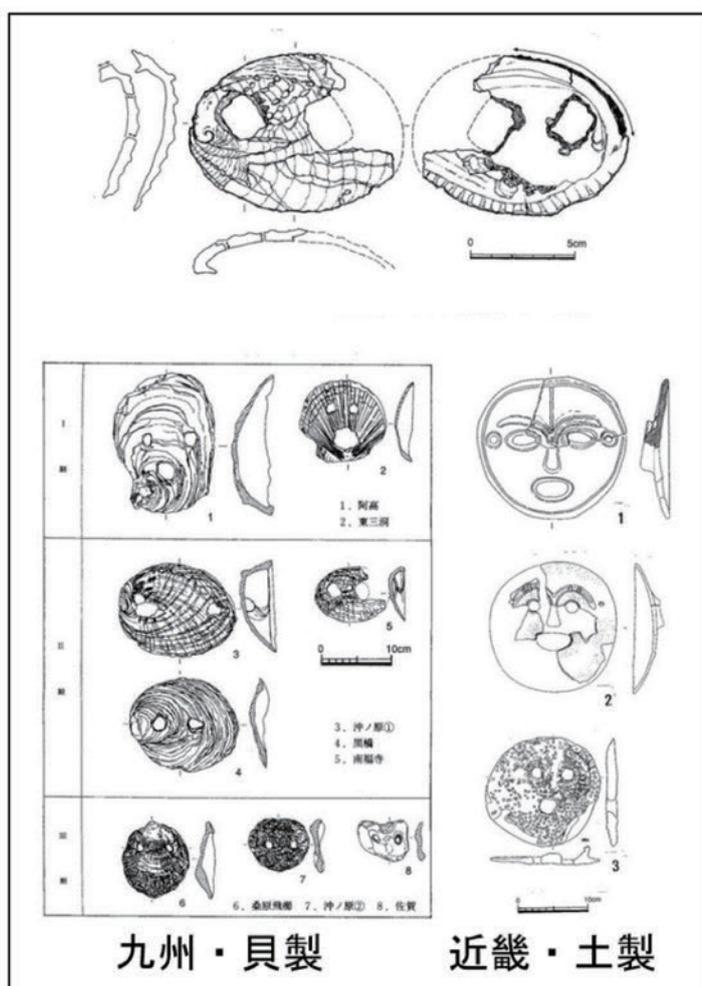
跡です。縄文時代早期後葉(約8,500年前)には九州で出現していたことが明らかになりました。

火焰型土器は、縄文文化を象徴する土器と考えられがちです。しかしそれは、新潟県の信濃川中・上流域の南北80kmに限って、約500年間だけ作られた土器で、縄文文化にとっては決して普遍的な存在ではありません。

土偶の出現地は、最近の研究では縄文時代草創期(約12,000年前)の滋賀県から三重県にかけての地域と考えられています。その後、近畿を中心に日本列島全体に広がって、前期以降は東日本が中心になっていきました。仮面も同じで、縄文時代後期(約4,200年前)の近畿から瀬戸内東部では土製が、九州では貝製が最初に出現しました。

ヒスイ製装身具は、ヒスイの原産地が糸魚川市域であることから、縄文時代中期中葉(約5,000年前)に北陸を中心に東日本に広がり、西日本には後期初頭から後期末葉(約4,000～3,800年前)にかけて少量が分布します。しかし、九州には濃い緑色の石であるクロム白雲母という石材で同じような装身具が作られ、それが西日本一帯はもちろん北陸－中部－東海にかけて逆に広く分布することになります。また、南島(奄美・沖縄地域)では縄文時代後期(約3,500年前)に、この地域独特のジュゴンの<sup>かがく</sup>下顎骨製の<sup>ちょうがた</sup>蝶形骨製品と呼ばれる大型の骨角製装身具も現れます。

これまで、縄文文化といえば東日本の縄文文化がその代表とされてきました。しかし、遺跡数が少なくとも、遺跡の規模が小さくとも、遺物が特徴的でなくとも、西日本の縄文文化を含めて考えないと縄文文化全体の本質を見失うことになる、という考えが近年はかなり普及してきました。西日本の縄文文化をどう考えるか。今後の日本列島の縄文文化研究にとっては大きな課題です。



第3図 西日本の縄文仮面

## 2. 世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」

**世界遺産のはじまりと本質** 2021年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されました。世界遺産登録は、1972年のユネスコ総会で「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」（以下「世界遺産条約」）が採択され、1975年に20か国が批准することで始まりました。その切っ掛けは、1960年にエジプトのアスワンハイダム建設に際して、水没するヌビア遺跡（アブ・シンベル神殿）の保護からでした。世界各国はこの世界の歴史と文化を代表する遺跡の移築について、経済的・技術的支援を行い、それにより世界的な文化財保護の機運が高まり、結果として世界遺産という枠組みができあがりました。つまり、世界的に重要な文化財が危機に瀕した場合、世界的な枠組みで保護しようという考え方です。しかし、最近は残念なことに、世界遺産は観光や政治的・外交的な道具となることが多くなり、本来の目的が失われつつあります。

**日本の世界遺産** 世界遺産には、文化遺産と自然遺産があります。現在日本では、文化遺産が21件、自然遺産が5件ありますが、ここでは文化遺産を取り上げます。

日本が世界遺産条約を批准したのは1992年でした。当初は、その文化財の年代や範囲が明確で、視覚的にもインパクトのある建造物が世界遺産に登録されました。1993年から1999年まで、「法隆寺地域の仏教建築物」「姫路城」「古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）」「白川郷・五箇山の合掌造り集落」「原爆ドーム」「巖島神社」「古都奈良の文化財」「日光の社寺」が登録されました。

日本の世界文化遺産	
1992年	「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」批准
1993年	法隆寺地域の仏教建築物
1993年	姫路城
1994年	古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）
1995年	白川郷・五箇山の合掌造り集落
1996年	原爆ドーム、巖島神社
1998年	古都奈良の文化財 ※平城宮跡は発掘調査済み
1999年	日光の社寺
2000年	琉球王国のグスク及び関連遺跡群 ↓ 発掘調査不可欠
2004年	紀伊山地の霊場と参詣道
2006・2007年	文化庁、地方自治体に対して推薦候補の公募
2007年	石見銀山遺跡とその文化的景観
2011年	平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－
2013年	富士山－信仰の対象と芸術の源泉－
2014年	富岡製紙場と絹産業遺産群
2015年	明治日本の産業革命遺産－製鉄・製鋼、造船、石炭産業－
2016年	ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－ ※単独建造物
2017年	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡
2018年	長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産
2019年	百舌鳥・古市古墳群
2021年	北海道・北東北の縄文遺跡群 ←
2024年	佐渡島の金山

第4図 日本の世界文化遺産

しかし、単体でわかりやすい文化財はそれほど多くなく、2000年の「琉球王国のグスク及び関連遺跡群」からはいくつかの文化財を集めてストーリーを組み立てる“シリアルノミネーション”という手法が中心になっていきました。するとここから、遺跡(埋蔵文化財)も含まれる、あるいはそれが主体とする文化財ばかりが世界遺産に登録されることとなります。遺跡は発掘調査を行わないと、正確な年代や範囲が確定できません。したがって、現在の日本の世界遺産登録には考古学が欠かせない状況になりました。

**北海道・北東北の縄文遺跡群** 2006年に青森県は「青森県の縄文遺跡群」を、秋田県は「秋田県のストーンサークル」で世界遺産にエントリーしました。しかし、それだけでは世界の歴史と文化にとって“顕著な普遍的価値”を有しているとは認められず、2007年に青森県を中心に、北海道・青森県・岩手県・秋田県の縄文遺跡15遺跡からなる「北海道・北東北の縄文遺跡群」で再エントリーしたところ、ユネスコの世界遺産暫定リストに掲載されました。

しかし、ここから世界遺産に登録される2021年までには、実に15年の歳月を経ることになります。すなわち、構成資産として追加が必要な遺跡の選択、残念ながら除外しないといけない遺跡の選択、遺跡の年代と範囲をより確定させるために必要な発掘調査の実施、世界的に通用する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の“顕著な普遍的価値”の説明、などに多くの時間と労力と予算を費やさなければなりません。まさに産みの苦しみですが、北海道・青森県・岩手県・秋田県の関係者の地道で継続的な取り組みにより、世界遺産登録が実現したのです。

**世界遺産の問題点** 現在、世界遺産は大きな岐路に立たされています。先述したように、世界遺産は観光や政治的・外交的な道具となることが多く、文化財保護という本来の目的が失われつつあります。また、その件数も現在は1,223件となり、ユネスコが一元的に管理することも難しくなってきました。そこで最近では、登録候補件数の制限も行われるようになりました。日本でも、登録になるまでの時間と労力と予算、登録されてからの維持管理、オーバーツーリズム問題など、課題満載です。何故世界遺産登録なのか、誰のための世界遺産なのか、今後どう維持管理するのかを、今一度真剣に考える時期にきているようです。

年代	時期区分	遺跡名	
		旧石器時代	
約13,000年前	草創期	⑦ おおたいやまもといち 太平山元I遺跡	←追加
約9,000年前	早期	⑤ かきのしま 垣ノ島遺跡(～後期)	←除外
		④ ちょうちやち 長七谷地貝塚	
約6,000年前	前期	③ いりえ-たかさご 入江-高登貝塚(～晩期)	←2つに
		② きたこがね 北真釜貝塚(～中期)	
		⑧ たごやの 田小原野貝塚(～中期)	
		① さんなんまるやま 三内丸山遺跡(～中期)	
		⑥ ふたつもり ニッ森貝塚(～中期)	
約5,000年前	縄文時代 中期	⑤ おおふね 大船遺跡	
		⑥ こしの 御所野遺跡	
約4,000年前	後期	④ わしのき 箕ノ木遺跡	←除外
		② こまさの 小笠野遺跡	
		⑦ おおゆかんじょうれっせき 大湯環状列石	
		⑧ いせどうたいいせき 伊勢堂岱遺跡	
約3,000年前	晩期	① さうすしゅうていりまぐん 土ワス 岡塚墓群	←追加
		④ かめがおかせっさだい 亀ヶ岡石器時代遺跡	
		⑩ おおもりかつやま 大森勝山遺跡	←追加
約2,300年前		⑤ くれかわせっさだい 黒川石器時代遺跡	
		弥生時代	

第5図 北海道・北東北の縄文遺跡群

### 3. 京都の縄文遺跡

先述したように、京都の縄文遺跡数は、全国的にみても少ない地域です(39位)。しかし、縄文時代研究の歴史において、あるいは日本海の縄文文化を考える上で、欠かせない遺跡もいくつかあります。

北白川縄文遺跡群(京都市) 1916年、日本で最初の考古学研究室が、京都大学の濱田耕作<sup>はまたこうさく</sup>によって開設されました(ちなみに同志社大学考古学研究室は、酒詰仲男<sup>さかづめなかお</sup>によって1953年に開設されました。西日本では京都大学に次いで古い考古学研究室です)。

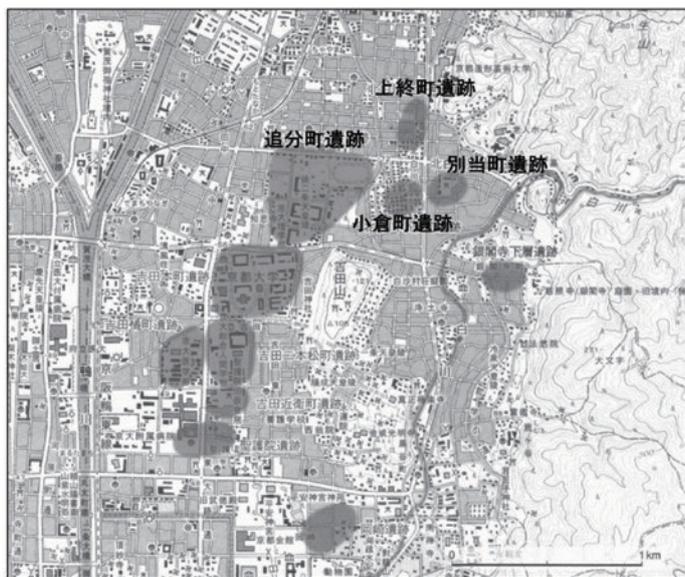
そのこともあり、京都大学の北側に広がる北白川扇状地の縄文遺跡群が、京都大学によって1923年から発掘調査されました。北白川追分遺跡<sup>きたしらかわおいわけ</sup>では、縄文時代前期の北白川下層式土器と後期の北白川上層式土器が層位的に識別されました。1934年と1939年に行われた上終町<sup>かみはてちょう</sup>・小倉町<sup>おぐらちょう</sup>・別当町<sup>べつとうちょう</sup>の近接した3遺跡の発掘調査では、それぞれに異なった北白川上層式土器が出土しました。このことからそこに時間差を見出し、北白川上層土器はI期・II期・III期に細分されました。また、縄文時代中期末葉の北白川C式土器の設定もこれらの遺跡が標識になりました。

1930年代は、九州でも発掘調査が盛んに行われ、現在に通じるさまざまな土器型式が認定されました。近畿・京都と九州では、あたかも歩調を合わせるかのように縄文時代の研究が進められました。

浦入遺跡<sup>うらにゅう</sup>(舞鶴市) 浦入遺跡は縄文時代研究にとっても大きい影響を及ぼしました。

一つは、後述する縄文時代早期(約8,000年前)の宮ノ下式土器の実態を明らかにしたことです。これまでこの宮ノ下式土器は小さな破片資料が中心であったため、全体の器形がもう一つわかりませんでした。しかし、この浦入遺跡出土の宮ノ下式土器によりその全体像が明らかになりました。

二つ目は、外洋性と考えられる残存長4.4mの丸木舟<sup>まるきぶね</sup>の発見です。年代は約5,300年前の縄文時代前期。日本列島の縄文時代では、これまで約150艘<sup>そう</sup>の丸木舟が発見されています。しかし、それらはいずれも断面形態<sup>ゆゑ</sup>が緩やかに丸く、深さも30cm程度しかありません。したがって、波が高い外洋に漕ぎだす丸木舟ではなく、波の穏やかな湖や河川で使用された丸木舟と考えられています。



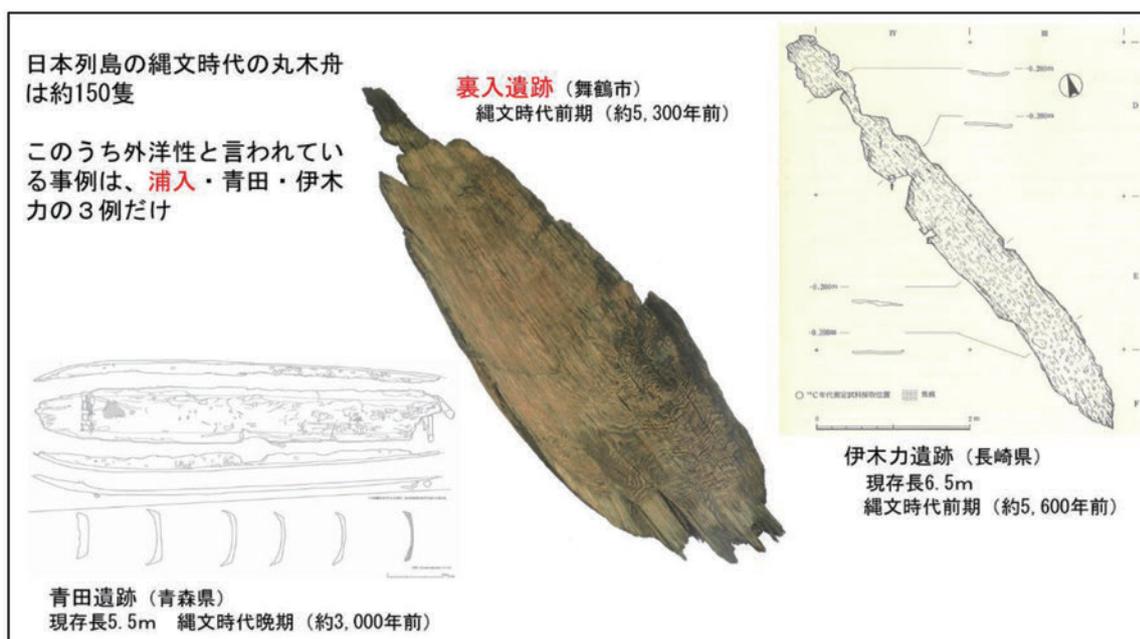
第6図 北白川扇状地の縄文遺跡群

ところが、浦入遺跡の丸木舟は、断面が逆台形になるような箱形で、深さも50cmはあったと考えられています。素材となる丸太からは、底面が平らになるような木取りを行っています。これらの特徴を有する丸木舟は、これまで長崎県の伊木力遺跡事例（縄文時代前期・約5,500年前・残存長6.5m）と新潟県の青田遺跡事例（縄文時代晩期・約3,000年前・残存長5.5m）しかありません。縄文時代の渡航技術がどんなものであったのか、今後の研究の進展が期待されます。

三つめは、玦状耳飾<sup>けつじょうみみかざり</sup>です。玦状耳飾は、縄文時代早期末葉（約7,500年前）から中期中葉（約5,000年前）まで、約2,500年間にわたって日本列島各地で使用された石製のイヤリングです。同時代の東アジア各地（中国・極東ロシア・朝鮮半島）に同様な石製のイヤリングが分布しており、どこがその出現地だったのか、日本では1917年以来100年以上にわたってさまざまな議論が続けられてきました。そのもっとも古い事例の一つが、この浦入遺跡からも出土しており、出現地問題に一石を投じています。

宮ノ下遺跡（京丹後市：旧網野町）同志社大学の酒詰仲男は、1953年に考古学研究室を開設した同志社大学の初代の考古学専任教員です。1957年に宮ノ下遺跡の発掘調査を行ったことを皮切りに、翌1958年には旧網野町の要請を受け、京都府下で唯一の貝塚遺跡である浜詰遺跡<sup>はまづめ</sup>の発掘調査を実施しました。その後酒詰は、この若狭湾一帯、京都府から福井県をフィールドとして発掘調査を続け、それは二代目の考古学専任教員であった森浩一<sup>もりこういち</sup>に引き継がれました。

宮ノ下遺跡では、現在も「宮ノ下式」として知られている縄文時代早期末葉（約7,500年前）



第7図 外洋性とされる縄文時代の丸木舟

の縄文土器が出土しました。土器の粘土に植物繊維が練り込まれることから「繊維土器」とも呼ばれ、土器の内外面に縄目文様が施されることから「表裏縄文土器」とも呼ばれます。

この発掘調査は実質7日間だけでしたが、小松公会堂という施設に宿泊して、魚釣りや近所の中学生との交流の様子が、発掘調査に参加した学生の日誌に残されています。その中で注目されることが毎日の食事。夕食にシチューが出た時は「ご馳走だ！」と書かれ、発掘調査で疲れた身体を夕食で癒す様子も伝わってきて興味深いです。

《参考：宮ノ下遺跡の発掘調査での食事、一人一食60円》

【21日】《朝》イカ酢漬 《夜》魚フライ・タコ酢

【22日】《朝》すまし汁 《昼》魚干物 《夜》カレーライス

【23日】《朝》ジャガイモ味噌汁 《夜》あじ干物・ササギ煮付け

【24日】《朝》アサリ味噌汁 《昼》飛び魚・豆の煮付け 《夜》刺身・シチュー

【25日】《朝》卵味噌汁 《昼》イカ煮付け 《夜》魚煮付け・オムレツ・お神酒

おわりに

「いま縄文がおもしろい！」といわれています。土偶や火焰型土器はもちろん、ヒスイ製の装身具や石製のイヤリング、環状集落や環状列石、そして貝塚。考古学研究の進展とともに縄文時代像のイメージがどんどん変わっています。それを上手く地域的に整理して、日本列島の縄文文化の代表として表現したものが世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」になります。今回、これらの状況を踏まえ、京都府下における縄文文化研究の黎明期である北白川遺跡群や、京都北部の代表的な縄文遺跡である浦入遺跡と宮ノ下遺跡を取り上げました。京都府下の縄文時代遺跡は少ないですが、いずれも重要な遺跡ばかりで、今後の研究の進展がとても楽しみです。

《参考文献》

京都大学総合博物館2024『比叡山麓の縄文世界』2023年度企画展・文化財発掘X

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター2001『浦入遺跡群』京都府遺跡調査報告書29

同志社大学校考古学研究室・多良見町教育委員会1990『伊木力遺跡』

同志社大学文学部文化史学科2020『宮ノ下遺跡』同志社大学文学部考古学研究室報告11

新潟県教育委員会2004『青田遺跡』新潟県文化財調査報告書133

水ノ江和同2022『縄文人は海を越えたか？－「文化圏と言葉」の境界を探訪する－』朝日新聞出版





第 156 回埋蔵文化財セミナー資料

発行日 令和 6 年 11 月 30 日 (土)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどの催し物は、下記のホームページでもご案内しています。

<https://www.kyotofu-maibun.or.jp>

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40 番の 3

Tel (075) 933-3877 (代表) Fax (075) 922-1189



FB



X